

令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立来待小学校)

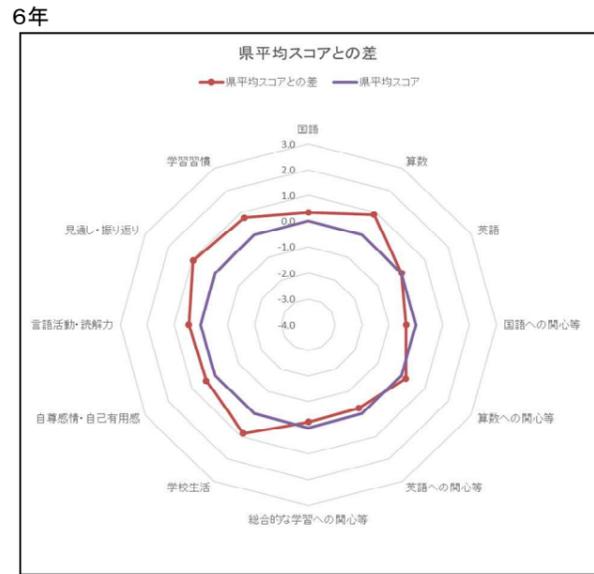
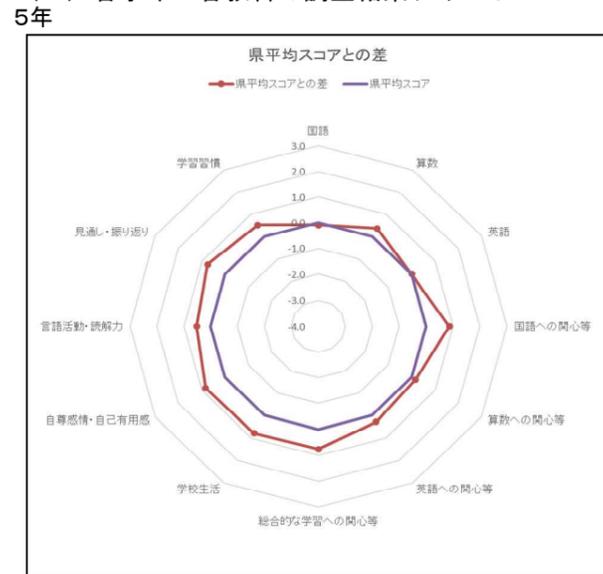
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○前学年までの学習のつまずき、遅れを補充しつつ、「わかる授業」により学習内容の定着が図られ、中上位層は学力を回復しつつある。 ●「話す・聞く」、「書く」、「読む」等の領域全般に渡って、県平均を数ポイント下回っている。また、クラスの4割の児童が、中央値を大きく下回っている。これは、前学年までの学習も含め、国語の学習の基礎となる「読み」についての指導が十分でなかったためと考える。	・全体的に「教科書の内容を教える、理解させる」という国語の授業が散見されたことから、1年生から6年生までの「読みの系統的な指導」をもとに、「教科書の教材を使って読み方を学ぶ」授業改善に現在取り組んでいるところであり、この取組を継続する。 ・著しく学習につまずきを持つ児童については、放課後学習等により個別支援を行う。
	算数	○前学年までの学習のつまずき、遅れを補充しつつ、「わかる授業」により学習内容の定着が図られ、中上位層は学力を回復しつつある。 ●前学年までの特に「数と計算」の領域に著しいつまずき、遅れがあったため、指導においてもそのことに時間が割かれ、本来の形で授業を進めることが難しかった。その影響が今回の結果となった。現在、個別支援により改善が図られ、本来の形で授業が成立し始めている。	・学習につまずきのある児童については、放課後学習等により個別支援を行い、学習の理解と学習への意欲が高まるようにする。 ・本校が考える「主体的・対話的な深い学びをめざした算数の授業(スタンダード)」と「協働による主体的で対話的な深い学びをめざした算数の授業(活用型)」を実践し、児童の学力の向上を図る。
6年	国語	○著しく学習につまずきのある児童はなく、全体が中上位層にある。これは、「わかる授業」を中心に取り組んだ成果と考える。 ●算数に比べ上位層が非常に少ない。学力調査の時間が足りず全部できなかった児童もかなりいた。全体を短時間で把握する読解力を付けさせることが必要である。また、「わかる授業」に加え、読解・表現力の育成をめざした「問題解決的な学習」に取り組む、児童の学習意欲と多様な国語力を引き出す取組が求められる。	・授業が、段落ごとの学習、細切れの内容に終始することなく、全体の把握と詳細な読解となるように、また、問題解決的な問いを提示し、主体的で対話的な学びとなるような学習を作っていく。 ・新聞記事を使った、要約、比較等の課題に取り組む成果を上げているが、時間を限って取り組むこと、速さを求めることも指導していく。
	算数	○全体的には上位層も多く良好な状況である。算数については学習意欲も高く、活用型の問題等にも意欲的に取り組もうとしている。 ●算数の学習につまずきをもつ児童が一部いる。これらの児童については、放課後学習等を通して指導し、学習内容の定着と自信がもてるよう支援することが必要である。	・本校が考える「協働による主体的で対話的な深い学びをめざした算数の授業(活用型)」をさらに実践し、児童の算数・数学に対する興味・関心を高める。 ・算数の学習につまずきをもつ児童については、個別支援を通し、本人のつまずきを明らかにし、指導により改善を図り、児童自身が自信がもてるようにする。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○グループ学習、発表の機会、話し合う活動等、主体的で対話的な深い学びとなる取組が進められている。 ●家庭学習についての児童の意識、意欲が向上するような授業の在り方を考える必要がある。	・授業で学んだことについて、家庭で調べ授業中に発表するような取組を設けたり、授業の一部に日々継続したドリル的な学習を取り入れ、自分の伸びを感じるような取組を設ける。
	家庭学習に関わる事項	●家庭学習の意識、意欲が低く、学習の定着、向上を図るための復習、家庭学習の時間、読書の時間等が県平均を下回っている。	・学習につまずきがあったり、苦手意識が強く一人で学習に取り組む児童については、進路保障の取組としての放課後学習会で、苦手を克服し自信がもてるようにする。 ・学級PTAで、メディアの時間の削減と家庭学習の時間1時間以上に各家庭で実践いただくよう働きかける。
6年	授業改善に関わる事項	○地域や社会の問題への関心、グループ学習、発表の機会、話し合う活動等、主体的で対話的な深い学びとなる取組が進められている。 ●図書館を使っている学習に対する意識や読書についての意識がやや低い。	・インターネットを使った調べ学習だけでなく、図書を使った学習にも取り組む機会を設ける。 ・担任が引率し図書の貸出等を行い、読書の習慣が身に付くようにする。
	家庭学習に関わる事項	○全体的に家庭学習に真面目に取り組んでいる。	・自学だけでなく、さらに活用、発展的な学習に取り組めるような問題、教材を準備し、児童の学習意欲を高める。 ・学習につまずきがあったり、苦手意識が強く一人で学習に取り組む児童については、進路保障の取組としての放課後学習会で、苦手を克服し自信がもてるようにする。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	58	66
	松江市	61	60
	島根県	60	58

受検者数
5年生 17人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	57	78
	松江市	52	60
	島根県	51	59

受検者数
6年生 22人

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

